

5-1 東海地方の微小地震の分布(1982年11月1日～1983年4月30日)

Distribution of Microearthquakes in Tokai District (November 1, 1982 - April 30, 1983)

名古屋大学 理学部
School of Science, Nagoya University

前報¹⁾にひきつづいて1982年11月1日より1983年4月30日までの6ヶ月間における東海地方の微小地震活動について報告する。

第1図に1982年11月1日より1983年4月30日までの6ヶ月間に名古屋大学理学部の地震テレメータ観測網によって観測された20km以浅に発生している微小地震の震央を3ヶ月づつの期間に分けて示す。第2図は同じ期間に発生した20kmより80kmの深さのものを示す。

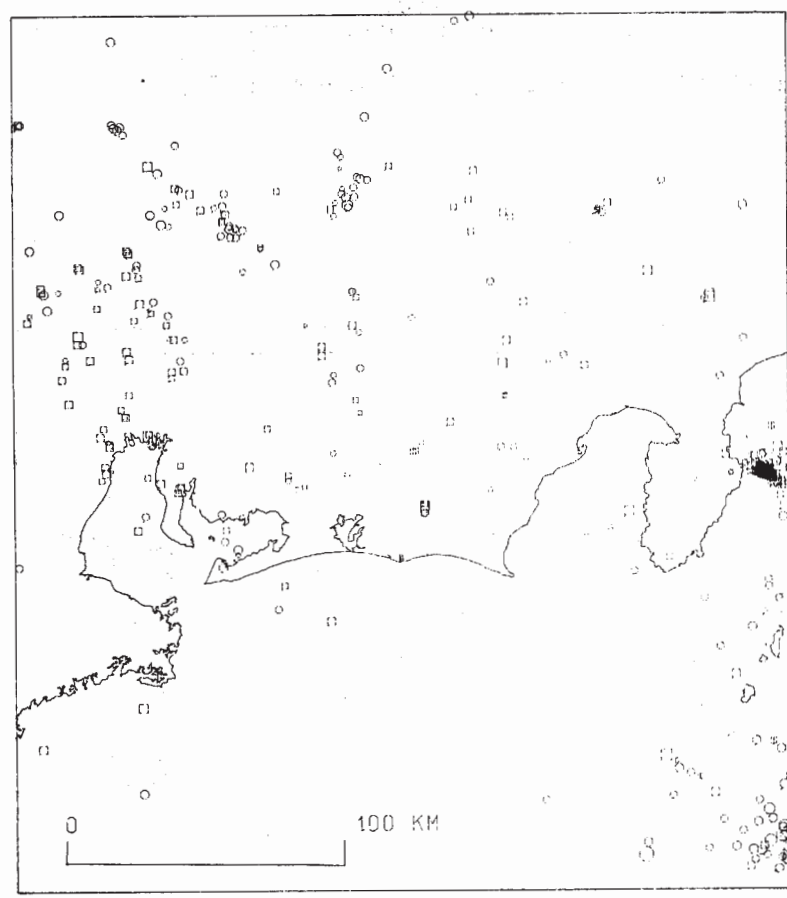
以下にその主な特徴について述べる。

- (1) 地殻内に発生する地震については11月は通常の活動とくらべ大差はみられなかったが12月に王滝村付近にM 3.1の地震がありやや活動的となった1983年1～2月は王滝村付近は極めて活動が低くなったが、3月8日、4月15日にそれぞれM 3.0の地震があり活動的になっている。これらの地震は伊豆半島東方の群発地震活動と相補的である。すなわち、伊豆半島東方では1月に非常に活発な地震活動があったが、3月4月は活動が非常に低くなっている。その他、野麦付近にM 3.2の地震があった。
- (2) 3月16日に浜名湖の北の地殻下でM 5.5の地震と余震が発生した。この地域は普段地震活動のかなり活発な所である。

4月8日に駿河湾中央部にM 4.5の地震とM 3.4, M 3.3の地震を含む余震が発生した。この地震の発生以前に3月12日より駿河湾内では駿河トラフ沿いに震央が北上する地震活動がみられた。また4月8日のM 4.5の地震の約2時間半後に愛知-長野県境付近にM 4.3の浅発地震があった。また4月29日に三島付近にM 4.7の地震が発生した。この地震は極浅発地震であるが、駿河トラフに沿って北上した地震群と時間的にも空間的にも同一直線上に乗ることは注目すべきである。この地震と駿河湾中央部の地震との間の駿河湾北部地域は通常地震活動のない地域である。第3図に駿河トラフ沿いに発生した地震の発生時刻とその震央の緯度との関係を示す。

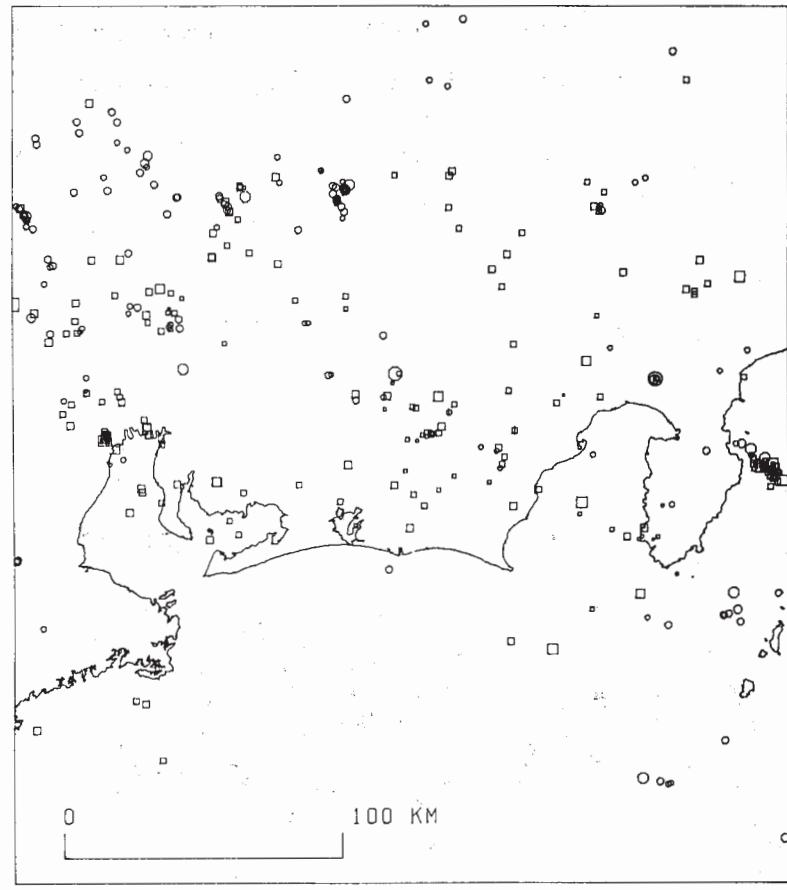
参 考 文 献

- 1) 名古屋大学理学部：東海地方の微小地震の分布(1982年5月1日～1982年10月31日), 連絡会報, 28(1982), 194-196.



N = 650

DEPTH 0 10 20 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ ○ ○ ○ ○
 NOV 1 1982 - JAN 31 1983

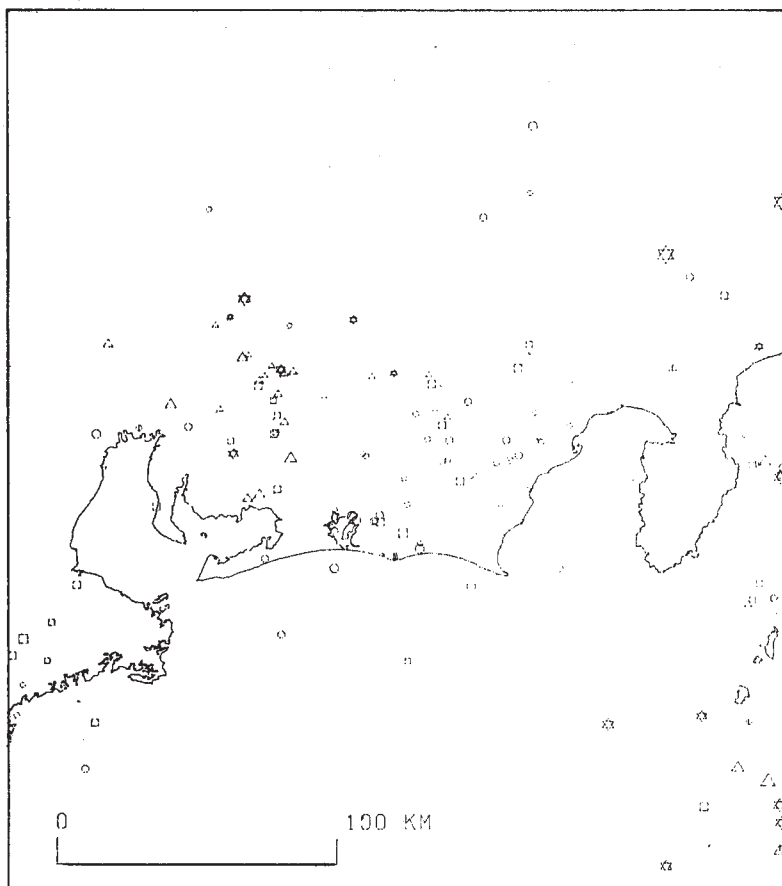


N = 349

DEPTH 0 10 20 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ ○ ○ ○ ○
 FEB 1 1983 - APR 30 1983

第1図 微小地震の分布 (1982年11月1日～1983年4月30日) 震源の深さが20km以浅のもの

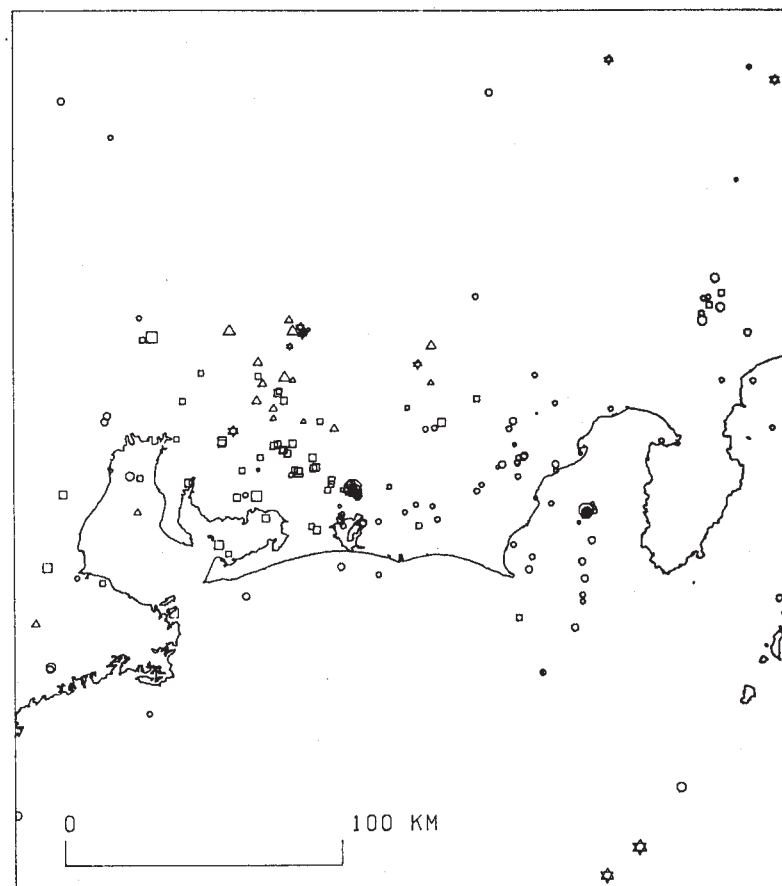
Fig. 1 Epicenter distribution of earthquakes (November 1, 1982 - April 30, 1983) whose depth are shallower than 20 km.



N = 174

DEPTH 20 30 40 50 80 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ △ ☆ ○ ○ ○ ○

NOV 1 1982 - JAN 31 1983



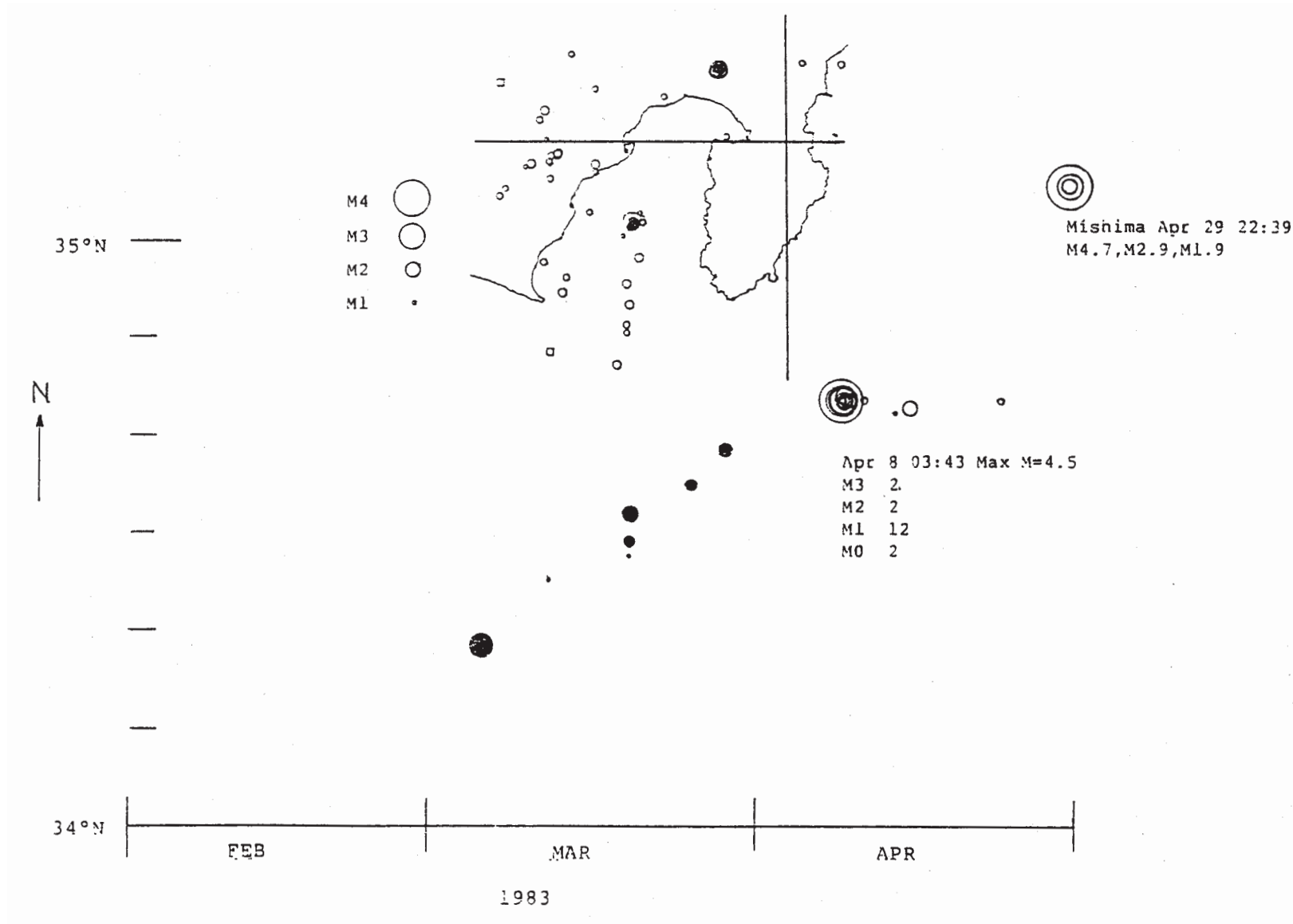
N = 208

DEPTH 20 30 40 50 80 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ △ ☆ ○ ○ ○ ○

FEB 1 1983 - APR 30 1983

第2図 微小地震の分布 (1982年11月1日~1983年4月30日) 震源の深さが20 kmより深いもの

Fig. 2 Epicenter distribution of earthquakes (November 1, 1982 - April 30, 1983) whose depth are deeper than 20 km.



第3図 駿河トラフに沿う地震の震源の移動
Fig. 3 Migration of earthquakes along the Suruga Trough.